

# トビウオ通信 (R6 第3号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《令和6年度上半期浮魚中長期漁況予報》

2023年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（令和6年3月26日発表 国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、水産研究・教育機構）より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和6年度上半期（4月～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

### 山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和6年度上半期(4～9月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年並みか前年を上回る

ウルメイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年並み

※本文中で「上半期」は4月～9月、「下半期」は10月～翌年3月（令和6年3月は速報値）、「平年」は過去5年（令和元年～令和5年）の平均値、「前年」は令和5年度上半期を示します。

#### マアジは前年並み

##### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和5年11月～令和6年1月の漁獲状況は、前年・平年を下回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成19年度から平成30年度にかけて、約2万～4万トンで推移していましたが、直近4年は1万トン前後で推移しています（図1）。令和5年度下半期は4,252トンで、前年同期（5,010トン）の85%、平年同期（4,091トン）の104%でした。

##### 今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和6年度上半期の日本海の漁況は前年並みで、平年を下回ると

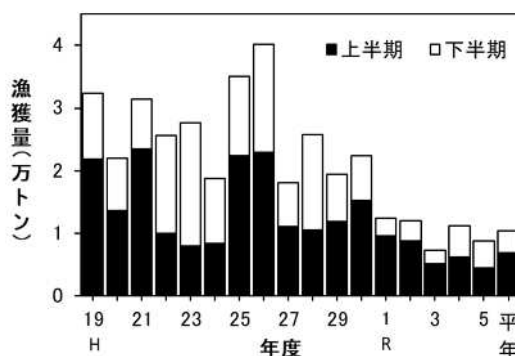


図1. 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年はR1～R5の平均値）

予測されています。山陰における令和6年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1歳魚(大きさ15～20cm:令和5年生まれ)と2歳魚(大きさ20～25cm:令和4年生まれ)の山陰沖への来遊状況と夏季以降に漁獲対象となる0歳魚(大きさ5～15cm:令和6年生まれ)の加入状況によって決まります。1歳魚の資源水準は、マアジ新規加入量調査<sup>※1</sup>の結果(図2)から、前年並みか前年を下回ると予測されます。また、2歳魚の資源水準は前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東シナ海におけるマアジの稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温帯面積は、令和6年は前年を上回ると見込まれており、親魚となる1～2歳魚の資源量も考慮すると0歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。以上のことおよび直近の漁獲動向から令和6年度上半期の漁況は、前年並みと予測します。

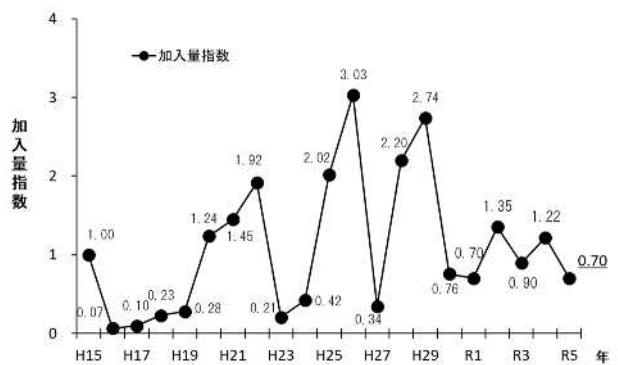


図2. マアジ新規加入量調査による加入量指数<sup>※2</sup>

※1 マアジ新規加入量調査: マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※2 加入量指数: マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。なお、平成15年を1としている。

## マサバは前年並みか前年を下回る

### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和5年11月～令和6年1月の漁獲状況は、前年・平年を上回りました。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年並みで、平年を上回りました。

島根県の中型まき網によるサバ類(島根県で漁獲されるサバ類はほとんどがマサバ)の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の推移をみると、平成18年度以降では約3千～2万トンの間で増減を繰り返しています(図3)。

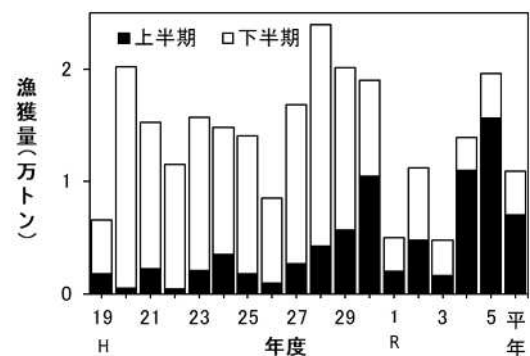


図3. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移(平年はR1～R5の平均値)

令和4年度以降は、上半期の漁獲量が下半期より増加し、1万～1万5千トンで推移しました。令和5年度下半期の漁獲量は3,972トンで、前年同期(3,020トン)の132%、平年同期(4,830トン)の82%でした。

### 今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和6年度上半期の日本海の漁況は、特異的に好調だった前年を下回り、平年を上回ると予測されています。山陰における令和6年度上半期の漁況は、1歳魚

(大きさ 25～30cm：令和 5 年生まれ) と 2 歳魚 (大きさ 32 cm以上：令和 4 年生まれ) が漁獲の主体となり、夏季以降は 0 歳魚 (大きさ 15～20cm：令和 6 年生まれ) も漁獲されます。1 歳魚及び 2 歳魚の資源水準は前年並みと予測されていますが、島根県は令和 4 年度～5 年度上半期が特異的な好漁であったことから、令和 6 年度上半期の漁況は、直近の漁況から好調だった前年並みか前年を下回ると予測します。

## マイワシは前年並みか前年を上回る

### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和 5 年 11 月～令和 6 年 1 月の漁獲状況は、前年を上回り、平年並みでした。また、島根県から青森県までの漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成 19 年度～平成 22 年度は低調に推移しましたが、平成 23 年度から増加し (図 4)、平成 26 年度を除いて約 1 万～4 万トンで推移しています。令和 5 年度下半期の漁獲量は 9,020 トンで、前年同期 (17,547 トン) の 51%、平年同期 (10,578 トン) の 85%でした。

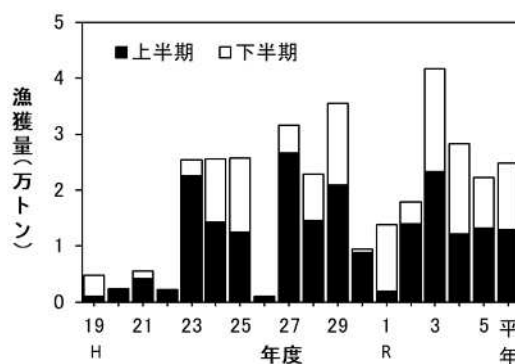


図 4. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移 (平年は R1～R5 の平均値)

### 今後の予報

水産研究・教育機構によると、令和 6 年度上半期の日本海の漁況は、前年並みで、平年を下回ると予測されています。山陰における令和 6 年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる 1～2 歳魚 (大きさ 15～20 cm：令和 4 年～令和 5 年生まれ) と夏季以降の 0 歳魚 (大きさ 15 cm以下：令和 6 年生まれ) の来遊量で決まります。1～2 歳魚の資源水準は前年並みと考えられます。また 0 歳魚の予測は困難ですが、令和 5 年 2 月から 6 月の産卵調査で九州北西沖において 1970～1980 年代に匹敵する卵が確認され、1 歳魚の加入が好調であることから、来遊量は前年並みか前年を上回る可能性があります。令和 6 年度上半期の漁況は、資源水準が増加傾向であることから、前年並みか前年を上回ると予測されます。

## ウルメイワシは前年並み

### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和 5 年 11 月～令和 6 年 1 月の漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 25 年度までは下半期の漁

獲量が多い傾向にありましたが、近年は上半期の漁獲量が多い傾向にあり、特に令和3年度以降は漁獲量の大部分を上半期が占めていました。一方、下半期の漁獲量は減少傾向にあります(図5)。令和5年度下半期の漁獲量は2,625トンで、前年同期(158トン)の1,661%、平年同期(1,630トン)の161%でした。

#### 今後の予報

山陰における令和6年度上半期の漁況は、1～2歳魚(大きさ18cm以上:令和4年～令和5年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5～15cm:令和6年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、中層トロール調査等から前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、親魚の状況から前年並みと考えられています。以上より、令和6年度上半期の来遊量は前年並みであると予測されており、島根県の漁況も前年並みと予測されます。

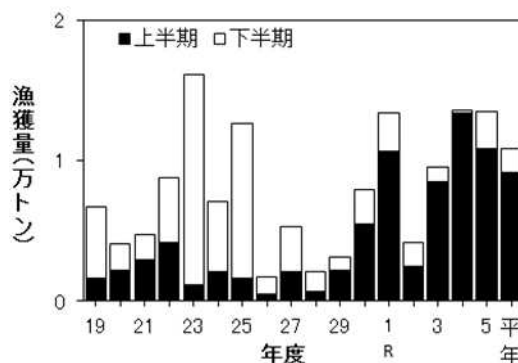


図5. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移(平年はR1～R5の平均値)

### カタクチイワシは前年並み

#### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和5年11月～令和6年1月の漁獲状況は、前年を上回り、平年を下回りました。

島根県によるカタクチイワシの漁獲量は、平成25年度以降減少しています(図6)。特に、令和4年度以降は上半期、下半期ともに不漁が続いています。令和5年度下半期の漁獲量は21トンで、平年同期(523トン)の4%でした(前年同期は0トン)。

#### 今後の予報

山陰における令和6年度上半期の漁況は、漁獲の主体となる1～2歳魚(大きさ12～14cm以上:令和4年～令和5年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5～10cm:令和6年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、直近の漁況から春季発生群は前年を下回り、秋季発生群は前年を上回るとされています。0歳魚が前年並みと仮定すると、全体の来遊量は不漁だった前年を上回ると考えられています。ただし、島根県では令和6年3月時点でほとんど漁獲が無く、不漁が続いていることから、令和6年度上半期の島根県の漁況は不漁だった前年並みと予測されます。

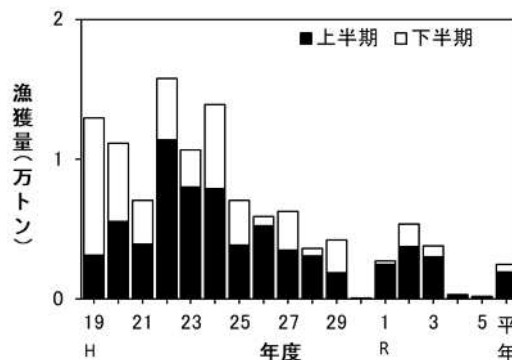


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移(平年はR1～R5の平均値)